

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 28 日
②法人・団体名	認定特定非営利活動法人 キッズドア		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒104-0033 東京都中央区新川 2-16-10 プライムアーバン新川 2 階		
④責任者氏名	渡辺由美子	(役職名等)	理事長
⑤担当者氏名	土井 清子	(役職名等)	

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R07-014	⑦助成金額	278 万円	⑧申請カテゴリー	FS
⑨奨学活動名	無料居場所型学習会「寺子屋宝珠庵」				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	「寺子屋宝珠庵」 東京都練馬区谷原 6-7-5、HOUJUAN				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

- ・会場：お寺の離れ(戸建住宅)を利用
- ・支援種類：地域密着型福祉視点の居場所型学習会
- ・対象の家庭：経済的理由で学習塾に通えないご家庭（ひとり親家庭、生活困窮家庭など）
- ・対象の学年（目安）：小学校 4 年生～中学校 3 年生
- ・サポート方法：社会人・大学生（大学院生）によるマンツーマン指導の個別学習
- ・実施日：火曜・金曜
- ・その他：無料軽食提供付き。18 時に異学年生徒全員でテーブルを囲み食事を摂る。
- ・体験格差解消：工場見学（体験活動）を実施
- ・対象外となった高校生に対しても情報提供を行い、修了後サポートを行った

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	120	2.5h	300	20:30 まで学習
高校生等	—		—	対象外だが修了後の支援は不定期で実施
大学生等	—		—	対象外
学習支援員等	239	3.5h	836.5h	学習指導+ミーティング（小学生の支援員含む）
その他	141	2.5h	352.5h	寺子屋宝珠庵の支援対象：小学生/登録人数
合 計			1,489h	

⑬その他の定量的な数値（任意）

軽食提供をしてくださる団体の来所（7 月～3 月までの数）

延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)
132	2.5h	330h

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：無料居場所型学習会「寺子屋宝珠庵」

法人・団体名：認定特定非営利活動法人 キッズドア

作成者 氏名：土井 清子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

寺子屋宝珠庵では、地域の子どもたちが主体的に学ぶ力を育むことを目的に、学習支援を受けながら、普段得られない体験活動も提供した。

◆異学年の交流：

学校も年齢も異なる異学年の交流を通じ、子どもたち同士が協力・助け合い、学校では味わえない学びを得られた。

◆体験・学びの多様化：

クリスマス会や夏期講習、プチイベントやバス遠足を通じて、社会性や自己表現力を養う機会を提供した。我々サポートする側も生徒を通じ知らない生徒の一面を知ることができ、挑戦できた。今後もボランティアの力を借り、学習支援だけでなく、文化体験・自然体験・伝統行事など、寺子屋宝珠庵ならではの体験を提供していきたい。

◆学習面・不登校児対応：

生徒一人ひとりの個性や理解度に合わせたマンツーマン学習サポートを行い、基礎学力の定着を図った。また、不登校気味の生徒が少しずつ寺子屋宝珠庵で過ごす時間を増やししながら自信をつけていく様子が見られた。

2. 実施した奨学活動の詳細

◆活動内容

- ・夏期講習 3 日間：キャリアトーク & 体験

ボランティア D さんによる「生け花」体験

ボランティア T さんの「金属講座」聴講→冬の工場見学に先駆け予習

毎年恒例の花火たっぷり

ドローン操作体験

- ・体験格差解消：

夏期講習 3 時間のうち、1 時間は

普段できない楽しい体験をしました。



- ・1 月 6 日工場見学（バス遠足）

学習支援ボランティアの T さんのお知り合いである大和合金(株)様と三芳合金工業(株)様が工場見学をしてくれるとのことで、日帰りで実施しました。

前述の「夏期講習」で、ボランティアの T さんによるキャリアトーク時間内で予告をしていました。

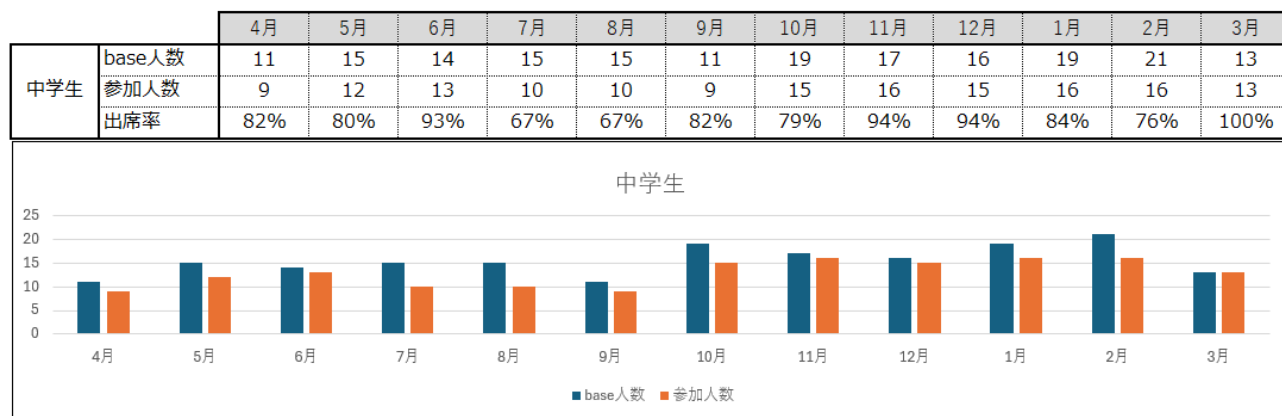
工場で働く方々に向かって元気に挨拶をしたり、応援の掛け声をかけたりする通常では見られない生徒の新しい発見ができました。



工場見学募集チラシ

お礼の壁新聞

◆参加人数（※中学生のみ表示）



夏期には一時的に出席率がやや低下したものの、全体としては高い水準を維持し、出席率が65%を下回ることはなく、安定的に生徒の来会が見られました。

今年度も全92回（＝92日間）の実施。

多くの学習支援ボランティアおよび調理ボランティアの皆様のご協力を得ることができました。

・参考：ボランティアの月別参加延べ人数表（①学習支援・②調理）

※小学生の学習支援ボランティアの数を含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習支援ボランティア	28	23	29	29	19	25	30	28	24	29	33	22
調理ボランティア	12	15	16	20	8	14	18	16	14	16	15	11

◆軽食提供

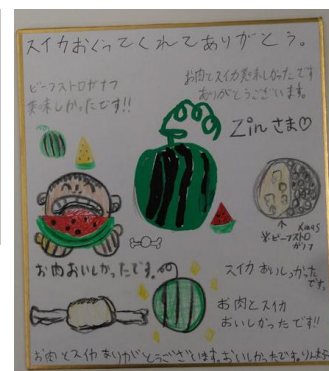
・協力団体：NPO 法人アクト練馬たすけあいワーカーズエプロン <https://npo-epuron.org/> による、毎食手作りであたたかい食事を提供をしてもらっています。

子どもたちにとっても、夕方6時にみんなで食卓を囲む時間は楽しみのひとつとなっており、仲良くなった仲間との会話を通して嫌いな食べ物が食べられるようになるなど、良い変化も生まれています。また、食事の時間は情報交換の場にもなっており、子ども同士の交流が自然と深まる大切なひとときとなっています。



・保護者：日々忙しい保護者にとっても子どもを預けている時間は保護者自身がホッとできる時間の確保や、一食分の負担軽減につながっていて好評です。

・影のボランティア：寺子屋宝珠庵の活動を支えてくださっている存在として、表には現れない「影のボランティア」の方がいらっしゃいます。寺子屋宝珠庵の発足当初からご支援くださっている方で、定期的にアイスクーキーや国内産の高級牛肉などをお送りいただいています。



子どもたちも、このように陰で応援して下さる方々の存在に深く感謝しており、「将来、自分が大人になったら、同じように誰かをこっそり応援したり寄付をしたりできる人になりたい」と話しています。お礼として寄せ書きなどを通じ、感謝の気持ちを伝える機会も設けています。

◆ニュースレターの発行（樫の芽会助成表示あり）

ニュースレターを発行していることで、保護者が「寺子屋宝珠庵で我が子がどんな時間を過ごしているのか」を自然にイメージできるようになるのは大きなメリットと考えます。

こうしたニュースレターがもたらす良い効果として、

・安心感の向上

子どもがどんな雰囲気学び、遊び、関わっているのかが見えると、保護者は安心できると思います。

・信頼関係

共有される情報が増えることで、保護者との信頼関係が強まります。

日々の小さな出来事や、子どもたちの成長の瞬間は、外からは見えにくいもの。ニュースレターはそれを丁寧に伝える役割を果たします。

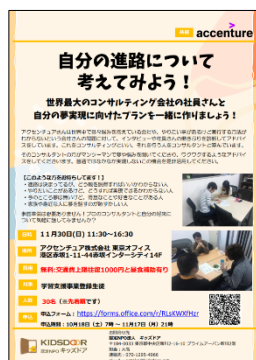


◆修了生支援

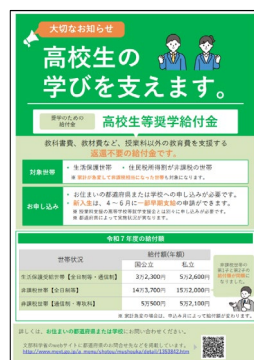
寺子屋宝珠庵では、支援対象外となった高校生の修了生に対しても有益な情報をお届けできるよう、弊団体の有益な情報やイベント、また、国（文部科学省）の情報なども提供・案内を継続しています。以下チラシは実際に配布したイベント告知チラシです。



夏期講座



アクセント



文部科学省

◆修了親子面談

修了式前には保護者に来会してもらい、面談を行った。寺子屋宝珠庵で過ごす様子をお伝えし、保護者からは学校やご家庭での様子を伺った。

普段からメールや電話でここでの様子（頑張っていたことや気がかりなこと）を逐一お伝えするようになっているが、対面では開始時の入会時面談以来となる保護者もいることから 30 分程度かけてマネージャー同席で実施しました。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

◆得られたもの

- ・生徒の学習・活動記録の蓄積が進み、得意・苦手教科の学習サポート以外にも性格・特徴な把握もできた。今後活かせる基盤が整った。
- ・主体的に学ぶ姿勢を身につけ、基礎学力の向上が見られた。継続的なサポートが重要と考える。
- ・生徒間だけでなく、ボランティア間の連携も強まり、運営体制が安定・持続してきました。

◆学習面での成果

- ・生徒：マンツーマン形式による学習支援で、生徒の学習意欲が大きく向上している点が確認された。

個々の理解度に応じた指導が可能となり、「わかる」体験を積み重ねることで自信をもって学習に取り組む姿が見られるようになっていきます。これにより、学習への主体性および継続的な取り組み姿勢の向上につながっていると考えます。

- ・学習支援ボランティア：学習支援ボランティアの満足度は高い水準にあり、当団体の取り組みとボランティアの方々の思いが概ね一致していることがうかがえます。現場では、安心して活動できる環境整備を継続して進めており、その結果として「支援が子どもたちの力になっている」と実感しやすい状況が構築されていると思います。このような環境が、ボランティアの活動意欲および満足度の向上にも寄与していると今後も期待したいところです。

◆反省点・課題

- ・生徒増員できず：中学生新規面談を3名実施したが、2名は加入に至らなかった。
 - 事前に電話でのヒアリングを実施し、後日来会してもらったが返信がなかった。理由不明。
 - 不登校気味という二人だったが、利用しない理由としては、通うには距離が遠かった、でした。
- ・忘れ物や集中力不足の生徒サポート：
 - 保護者との連携を深め、保護者へ協力をお願いしていくことが大事と考えます。

◆今後への発展性

- ・体験格差：地域企業との協力や関わりを増やし、子どもたちに普通では得られない体験活動を今後も提供していきたい。さまざまな年齢や職業の大人と共に過ごすことで、楽しみながら新しい知識を得たり、コミュニケーションスキルを向上させたりする機会を提供し、子どもたちが自分自身を見つめ、将来の進路について考えるきっかけを作っていくことを進めていきたい。
- ・地域連携：地域連携については、近隣地域で子どもに関わる活動を行っている団体や機関（こども食堂、児童館、医院等）と連携し、生徒を増やし学習支援の充実を図っていく。また、これらの関係機関に寺子屋宝珠庵の活動を知っていただくことで、少しずつネットワークを広げていくことが大事と考えます。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

◆人間的成長・コミュニティ形成

異年齢交流を通じて、思いやりや協働の姿勢が育まれた様子が見られます。学習以外の活動（行事、体験学習など）を通じて、子どもたちの自信や達成感が高まりました。保護者も同様に感じているようで、孤立しがちな家庭環境にある保護者からも感謝の言葉を貰うことがあり、我々スタッフも嬉しいです。

◆ボランティア満足度が示す私たちの確かな歩み

寺子屋宝珠庵での学習支援ボランティアは、子どもたちの「できた！」という瞬間に立ち会える喜びが大きく、活動するたびに深い満足感を得られているようです。

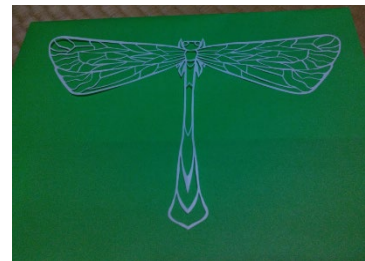
我々運営側も、学習支援ボランティア・調理ボランティアの皆さまが子どもたちと丁寧に向き合える環境づくりに努めていますが、寺子屋宝珠庵では学習面だけでなく心の成長にも寄り添える場であるため、各ボランティアにとっても満足度が高く、活動回数も安定しています。また、スタッフや他のボランティアとの連携・交流も良好で、安心して参加できる雰囲気を整っています。

地域の子どもたちに貢献できる実感がやりがいにつながり、自身の学びや成長にもつながる貴重な経験となっています。

◆サポーターへの感謝

寺子屋宝珠庵を支えてくれている方々へ「色紙」「寄せ書き」などで感謝を伝えるように意識しています。直接会ってお礼を言えない方々もいることから子どもたちも嫌がらず協力してくれます。

このトンボの切り絵は生徒が得意としている工作で、下書き無しで切っていく姿を何度か見ました。プライバシーがあるので詳細は端折りますが、発声しない子どもで、自宅で寺子屋宝珠庵のために作ってくれたとのこと。（無事、高校に進学しました）



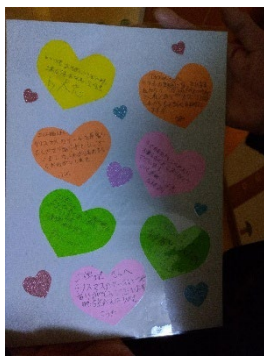
◆『やりたい！』から生まれた主体性

修了式では当初、大人が司会を務める予定であったが、複数の子どもたちから「自分が司会をしたい」という積極的な声が上がった。そのため、子ども同士でじゃんけんを行い、オレンジの生徒が急遽司会を担当することとなりました。この一連の流れから、子どもたちが自ら役割を担おうとする主体的な姿勢が見られ、自主性の育ちを実感する機会となりました。

また、ご住職宛ての寄せ書きを無事に手渡すことができ、さらに餃子づくりも行うなど、子どもたちが主体的に関わりながら活動を楽しむ様子が見られました。これらの経験を通して、子ども一人ひとりが自ら考え行動する姿が育まれ、参加者全員が満足する充実した修了式となりました。



オレンジ君が急遽司会！



寄せ書き



自宅でできそうでできない体験「餃子づくり」



5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリにて「S」が付されている団体）

寺子屋宝珠庵に学識者の在籍なし